パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会　会報　　２０１７年４月１日　１６３号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

開墾体験で復興するGPA研修生たち

青年はパンタナールをめざす！

二月二七日から三月三日にかけて、ＧＰＡ(Generation Peace Academy：本部=米国ニューヨーク市）の研修会が、レダ基地を拠点として開催されました。参加したのは、米国の青年男女十九名とパラグアイ青年三名。これにスタッフの大人三名の、計二十五名です。この企画は、これに先立ち、去る一月から二月にかけて開催された、パラグアイ青年の二十一日研修会に続くもので、パンタナールの大自然と、そこで営まれる養殖場、農場、教育施設、および先住民の村と学校を訪れ、心と体の汗を流す体験型の研修会です。

「自然が生々しく息づき、秘めた可能性のほとんどが未開発のパンタナール。それを人生に例えれば、青春時代」と先号でお伝えしました。今、青年たちの自発的な研修の場として、レダ基地をめぐる教育環境が利用されるようになってきたことは、この地に福地を指向する新しいコミュニティを建設すべく、環境の維持と整備に努めて来たレダ基地スタッフたちにとって、大きな喜びだと言います。

参加者の感想文より　●今回の活動で、とても多くの愛と美しいものとを体験しました。レダ基地の歴史を知り、どれほど尽力されたかも知りました。レダの発展を祈りつつ、私もまた早く戻って来たく思います。（19男）●今回のような企画は、レダなしでは考えられません。これまでレダプロジェクトをあきらめなかったことを感謝します。（21男）●私たちがレダに来れたことは、とても栄えあることだと思います。レダのことは何度も聞いていましたが、自分が来れるとは思っていませんでした。宿所や食事もよかったけれど、それ以上に皆様の献身的な姿に触れられて感謝です。（18男）●私の心は今レダにあります。帰国して報告する日が待ち遠しいです。また来ます。（19女）

パンタナールのカピバラと身近に触れあう。

次頁へ続く

ＧＰＡ研修会
2月27日～3月3日

セミナーハウスにて、中田所長より歓迎のあいさつを受ける。

レダ基地公館を訪問した研修生一行。

先住民の村ディアナの子供たちと交流。

猛魚ピラニアを釣った！

高橋泰子さんとルイーズ・ハニーさん。

奉仕作業を終えて、ディアナの先生・生徒たちとともに。

ディアナの学校にて、研修生たちが歌などを披露する。

カピバラが気持ちよくなると。

レダの養殖池で、パクーの収穫作業を体験する。

（感想続き）●私たちを家族として迎えてくださった皆様の純な姿勢に感動しました。文先生夫妻のレガシーを生きた状態で伝えていることがとても感謝です。（20女）●私も周囲にもっと愛と喜びを与えねばと思います。次はもっと長く滞在してもっと奉仕したいです。（19女）●最初から最後までレダの美しさと畏敬の念に満たされっぱなしでした。また来る日が待ちきれません。（18女）●また来ますのでご心配なく。皆様の注いだくださった愛に深く感謝します。皆様は私にとって、孝女のモデルです。（19女）●皆様の成してこられたことは、言葉にはできません。ここでの経験は、これからもずっと忘れません。将来家族とともに戻ってくる日のことを想い、希望で胸が震えます。（18女）●すばらしい体験の数々をありがとうございます。この地に築かれた基盤は驚くばかりです。皆様のご苦労と献身に感謝をささげます。（19女）●この一週間とっても楽しかったです！　今度来るときはもっとお手伝いをしたいと思っています。この17年間も本当にありがとうございます。私はもっと神様のために生きる娘になりたいと心から思いました。また会える日を楽しみに待っています。（18女）●いつかまた帰って来て、皆様方の努力は無駄にならなかったことを証明しに来ます。（18男）

吉村敏明氏帰国報告

昨年三月から六月にかけて三か月間、レダ基地でプロジェクト活動に奉仕した吉村氏が、十一月に再度出発して、真夏のレダ基地で活動して来ました。去る二月に帰国し、直後の定例集会で、その体験と感じた世界を報告しました。

昨年十一月十七日に日本を発ちましたが、新年をレダの地で迎えられるように日取りを計画しました。今回は大元さんとずっと同行したのですが、いつも明るく元気な大元さんから、しばしば力を与えられました。彼は感性が豊かで、よく感動し、そのたびに「ウォー！」と大きな声を上げるのです。それでパラグアイの21日研修生たちから「ウォー」のおじさんと呼ばれるほどでした。

十二月は、パクーの人工孵化のために、レダ基地のスタッフとともに全力投球しました。マグノ教授はまだ到着されていなかったのですが、今までに学んだ知識と経験を活かし、20万匹以上の孵化に成功しました。今回は優れた母魚が得られ、完熟卵を多く採取でき、孵化率も高くなりました。一月になってマグノ教授が来られ、アストロ（オスカー）、エビ、海水魚の養殖などについても話し合いました。

レダ基地の年末年始は、当然と言えば当然ですが、通常の業務と生活があり、大晦日も正月もありませんでした。そんな中で頑張っているスタッフのために、豆腐用のにがりを持って行き、これを使って美味しい豆腐ができました。次回はもち米粉を持って行き、お餅を作ってあげたいと思います。

タロイモを収穫する大山氏と吉村氏（左）

一月中旬から、多くのパラグアイ青年たちが21日研修会をするためにやって来ました。約半数が高校生で、中学生も二名いました。昨年も同様の21日研修会を実行しましたが、そこに参加した青年たちがアスンシオンに戻り、報告会で息子娘たちの体験談を聞いた父母たちが大いに感銘を受け、今年再び開催することになったと聞いています。このような研修会は今後も継続的に開かれるそうで、陰でお世話をした私たちにとっても大きな喜びです。

レダ基地で奉仕している方々の様子を、少しだけですがご紹介します。紅屋さんは、一日中清掃に没頭し、今まで掃除が行き届かなかった部分もきれいになって、皆さんに喜ばれています。中村さんは難しいけれども重要な機械類のメンテナンスと、養殖場に責任を持っています。北中さんは訪問者を迎えて、滞在中の世話をし、大きな満足を抱いて発つのを見送る「接待部長」としても活躍しています。

パクーの養殖池にてタモを手に。

勝吾郎君はお父さん（上山氏）が日本に帰っていた期間も自ら進んでレダに残りました。「一、二月は、一年で最も忙しい期間だから」というのがその理由です。インターン生の奥迫君は、養殖の知識と経験を積み、中田所長の補佐を見事に務めています。

小橋さんは美味しい食品を開発して皆を喜ばせるだけでなく、様々な心遣いで、私たちをほっとさせてくれます。水落さんは、月ごと、日ごとのスケジュールをピシッと立て、後々に残る美しく頑丈な作品を作り続けています。急な仕事が舞い込んでも何とかして応えてくれます。壮年の小橋さんと水落さんを見ると、つくづくありがたい思いがします。

大元さんはカピバラの世話も任されるようになりました。可愛らしいカピバラたちに付きまとわれ、尻をつつかれたり、かじられたりしています。首をなでてやると、ひっくり返ってお腹を出します。私は大山さんとともに豚の世話と、タロイモ栽培を担当しました。その後、ひょんないきさつで、子猫たちの世話も任され、ますます忙しくなりました。

レダには、やることがいくらでもあるので、もっともっと多くの方々にレダに赴いて欲しく思います。

一月初旬に、日系移住者の代表である伊藤さん、公文さんら、三名の方が、陸路難しい道をはるばる訪ねて来られました。私たちの先駆者である日系人およびメノー教徒たちとよき協力関係を築いて、この国の人々に良い影響を与えることをしたいと、私たちが話し合っていた矢先のことでした。互いの力を合わせれば、希望も大きくなります。

私が日本を出る前に坐骨神経痛にかかったので、多くの方々が心配してくださいました。私自身は、「熱い国に行くのだから、すぐに治るだろう」と楽観視していたのですが、そうは行かず、歩くのも、自転車の乗り降りも一時大変でした。余裕のある時だけでなく、余裕のないとき、限界状況の中でも人のために生きられるかと、深刻に問われる思いでした。今は少しずつ良くなってきています。

驚かさないようにそっと草をやるのがコツ

レダは、世界のためのレダです。世界中からここを訪ねて来る人々や家庭は、南米大陸の子宮のような位置にあって、現代のエデンの園とも言えるこの地で誠心誠意を尽くすことで、新たに生まれ直す体験をすることができるのだと思います。

中田所長は「終着駅は最高に輝ける場所でなければならない」と言われます。今私は、この地を人生の終着駅として、最高に美しく輝く福地にすべく、今後も家族とともに全力を尽くして行きたいと決意しています。●吉村敏明　株式会社パンタナール社長

持続可能な豊かさへ道すじ

第18回環境問題研究会セミナーを開催

三月十八日午後一時半より、川崎市の大山街道ふるさと館イベントホールにおいて、第18回環境問題研究会セミナーが開催され、61名が参加しました。

テーマは「水面下から見た海洋環境―地球の海を潜り続ける」講師は日本を代表する潜水士であり、海洋環境問題のエキスパートである渋谷正信氏。

渋谷氏は「陸上でできることはすべて水中でもできる」として、どんなに困難に見えた海中工事も成し遂げ、その仕事ぶりが多くのテレビ番組で取り上げられました。代表的な例だけでも、レインボーブリッジ、東京湾アクアライン、羽田空港D滑走路、関西空港、第三海堡撤去、阪神淡路大震災および東日本大震災復旧工事、全国の島嶼沿岸や港湾建設などの工事に携わり、その潜水時間は三万五千時間を越えています。●しかし、昭和の終わり頃に環境問題が表面化するとともに、環境という視点に立って潜水士という自分の仕事を見直しました。水中から見えて来る風景から、水中環境の意義に目覚め、海洋構造物の漁礁化による未来の可能性を発表、魚が棲める環境とはどういう海なのかなど、自主的に調査を進めました。●磯焼けによる全国の漁場の危機に対し、藻場の復活を通して本来の食物連鎖を取り戻すしくみを、浮体式洋上風力発電や潮力発電など海洋エネルギーの開発とワンセットで研究し、海の豊かさを取り戻すという成果に結びつけています。

セミナー聴講者たちに語る、渋谷正信氏

発表に先立ち：三つの願いを提示。一、日本の海と地球の海の中が、生きものたちの住みやすい環境になることを願って。二、私たち人間とすべての生命が調和することを願って。三、ここに参加している方々と調和した時間を過ごせるように願って。

講義は極めて豊富な資料を駆使したパワーポイントを用い、やや早口ながらも丁寧で分かりやすく語られ、聴講者たちも熱心に聴き入りました。講義は午後四時過ぎまで続き、最後に質疑応答と、記念撮影をして終了。終始熱気に包まれた研究会でした。

講義目次：①潜水士として私がたどってきた足取り ②そこから気付いたこと、学んだこと ③自然生態系、漁業との共生に取り組むことになったいきさつ ④海洋エネルギーと漁業、自然生態系との共生「コラボレーション」⑤海のいのちと豊かさ

聴講メモ：●日本の海は沿岸の海藻が激減し、食物連鎖の基礎である植物プランクトンが減少→魚介類の産卵、幼魚の育つ場が消えている。●ヨーロッパの海は日本の海ほど荒れていない。海藻も多いし、魚も多い。●海の中に海と調和する構造物をつくる→施設内は禁漁区→親魚が育つ→産卵し幼魚が育つ→周辺に魚が拡散する。●豊かな漁場である英国オークニー諸島では、漁師の自主規制が功を奏し、漁獲量が50年間変わっていない。●御蔵島の周囲にはバンドウイルカが棲みつき、ドルフィンスイムから島に一大産業が興った。●生物や漁業を大切にすることで持続可能な豊かさが生み出される事例は今後も増え続ける。●目に見えない生きものたちの働きをしっかりととらえられるようになりたい。●海のバリバリの潜水士がたどり着いた先は、感謝と恩返し。（小田記）

熱心に聴き入る聴講者たち（大山街道ふるさと館）

一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001
神奈川県川崎市高津区
溝口３－１１－１５
岩崎ビル４Ｆ
電話：044-829-2821
FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）
記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール：office@asd-nsa.com
ホームページ：asd-nsa.com

会員種別

♠会員一口1000円／月
♠特別会員一口１万円／月
♠法人会員一口１万円／月
※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。
会費振替用口座　ゆうちょ銀行
00290-5-113072
加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願いします。